# 実例1300件を徹底分析！
# どうすれば防げる？子供の車内事故

過去に「車内で子供がケガをしたことがある」人は約14%（4月号本誌アンケート）。ドアに手足を挟んだり、窓に首や手を挟んだり……。気をつけていたはず、なのに起こるケガを防ぐには？1389件の実例から対策法を考えます。

唐仁原教久＝イラスト
*Illustration by Norihisa Tojinbara*

## こんな時、こんな危険が！「車内で起こった子供のケガ」実例集

### 1位 ドアに手や足を挟んだ（594通）

●子供が乗ったな、と思い込みドアを外から閉めたら子供の片足が挟まった。（33歳・女性）

●車のドアが風で閉まって指を挟んだ。（31歳・女性）

●弟が降りることを忘れドアを閉め、弟の手を挟んだ。（31歳・女性）

●助手席のドアを閉めたとたん、「ギャー」の声にびっくり。子供が扉線に手を置いており、ドアに挟んでしまった。（56歳・男性）

★ドアの閉まる際は、チャイルドシートの確認をしなかった」などの理由が「強風時」「見えにくい」の例も。「閉めるよ」と声をかけて確認することが大切。また子供がドアを閉め、兄弟の指を挟むケースも多い。子供にはドアの開閉をさせないようにしたい。

### 2位 急ブレーキ時、頭や体を強打した（391通）

●チャイルドシートを嫌がるので、好きにさせていた。急ブレーキ時に後部座席中央にいた子供がシフトレバーまで飛んできて右目を強打。ものすごくはれ、失明するところだった。（36歳・女性）

●ジュニアシートに乗せ、シートベルトを締め忘れた。急ブレーキをかけたとたんシートの下に落ちて顔をぶつけた。（32歳・女性）

●着用義務化の前。何気ないブレーキの時、助手席で妻の膝の上にいた3歳の子供が、手から離れて顔からダッシュボードへ。鼻血がひどく、病院で「あなたが悪い」「おまえが抱んでないからだ」と暗嘩になり、看護婦さんに叱られた。（男性）

●自分でチャイルドシートのロックを外してしまい、急ブレーキをかけた時に飛ばされてフロントガラスを直撃した。（41歳・女性）

★チャイルドシートをきちんと装着していればすべて防げたケース（※法制化前の体験談も含む）。また、子供が大きくなると、自分でチャイルドシートのロックを外してしまう場合もあるので要注意。

### 3位 パワーウインドーに手・足・首などを挟んだ（136通）

●子供が運転席で遊んでいた時。窓から首を出しながらドアにもたれたため、スイッチを押してしまい、首が挟まった。そのままもがいていてスイッチを解除できず、首にくっきりと跡がつくほどだった。（38歳・女性）

●娘が窓ガラスに寄りかかっていたら、スイッチを押してしまった。腕がガラスとともに引き込まれてアザができた。（46歳・男性）

★小さい子はチャイルドシートに座っていれば、窓に手を挟む事故は防げる。また誤って操作しないようにウインドーロックはオンに。

### 4位 ドアが開いた、または子供がドアを開けて、車外へ転落した（25通）

●信号待ちの時、子供がドアを開け、道路に落ちて顔にすり傷を作った。（54歳・男性）

●ワゴンで子供5人が後ろのシートを倒して乗っていた時。後ろのハッチが半ドアだったため開き、1人が転落。骨折などの大ケガになってしまった。（30歳・男性）

★チャイルドロックを活用して、ドアを開けられないようにしておく。また、シートを極端に倒した状態で走行するのは危険。

### 5位 乗せ降ろし時に頭をぶつけた（18通）

●チャイルドシートの乗せ降ろしの際に、頭をゴンと上部にぶつけ

森山みずほ＝文（P13〜15）、落合恵弘＝撮影（P13、15）

# 車は家よりもリスクが高い

●子どもの事故予防情報センター代表・小児科医
山中龍宏 監修

車に限らず、子供のケガについて語られる時に、よく耳にするのが「手を離しても目を離すな」というセリフ。車内事故も、親が目さえ離さなければ防げるのだろうか？　子供の事故予防の第一人者であり、小児科医の山中龍宏先生はこう語る。

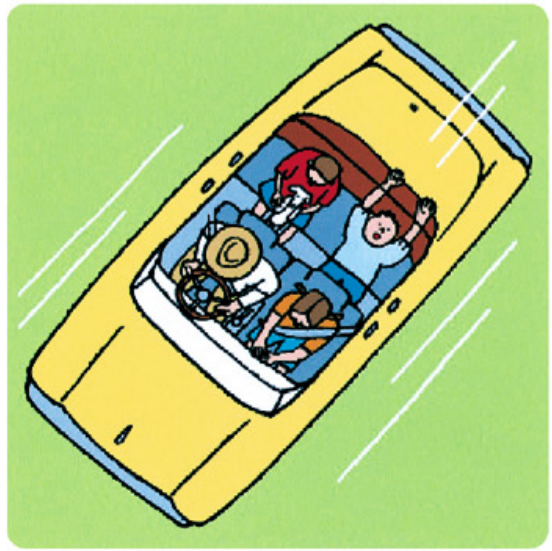
「子供がケガをすると、多くの親が"私の不注意で……"と言います。ですが、100%子供を監視するなんて現実には無理。それよりも親の意識、事故を防ぐための考え方を変えないとダメなんです」

まずは、"車は家よりもリスクが高い"という認識を持つことだという。車内に関してはなぜか、安全で快適だと思い込んでいる人が多い。しかしそれは大きな間違いで、走行中に急ブレーキを踏むかもしれないし、事故に巻き込まれる可能性もある。冷房をつけた車内が高温になる場合もある。「そういうリスクのある物に子供を乗せているという意識があれば、おのずとチャイルドシートにきちっと座らせるし、車内に子供を残そうとは思わないはずです。事故の大半はこれで防ぐことができます」。

また「まだ小さいから、そんなことできるわけがない」という思い込みも禁物。実際に「灰皿の吸い殻を食べた」「サイドブレーキを解除して車が動き出した」等の例があった。車に子供を乗せる際は常に"～かもしれない"という考えが大切だ。

それでも100%完璧な予防策はない、と山中先生は言う。こう聞くと子を持つ親としては不安になるが、「すべてを完璧に予防しよう」と思うと、対象は気が遠くなるような数になります。ですから、まずは重傷度が高い事故（熱中症、食べ物をのどに詰まらせる等）、次に発生頻度が高い事故（ドアに手を挟む等）に注意するといいでしょう」。この他にも注意点を左にまとめたので参考にしてほしい。

必要なのは実例を知って、親が「危険」を意識すること。それがケガ防止の近道なのだから。



## 6位 チャイルドシートごと外れて転落した

17通

●取り付けがうまくいかず、急ブレーキの時にシートごと外れて前に倒れ込んだ。（31歳・女性）

★「ベビーシートがなく、チャイルドシートに座らせておいた。ベルトが緩く滑り落ち、後部座席の隙間に挟まった。（45歳・男性）」など使用法が不適切な例も。子供の体格に合ったシートを使うのは鉄則。またチャイルドシートは、走行すると緩むこともあるので、2～3回走ったら必ず固定具合の再確認を。

## 7位 シートベルトの金具でやけどした

16通

●短パンをはかせた子供をチャイルドシートに乗せようとしたら、太ももを熱くなった金具でやけどさせてしまった。（31歳・女性）

★類似例として、真夏に革のシートで軽いやけどをした例もあった。夏場は子供を乗せる前に、金具類が熱くなっていないかの確認を。

## 8位 シガーライターをいたずらしてやけどした

11通

●いつの間にかやり方を覚えていた。自分で押して、抜いて、指を熱線にジュッ。（46歳・男性）

●父親のマネをしてシガーライターを口元にもっていきやけどした。（44歳・男性）

★4～5歳の子に多いケガ。子供に触らせない（子供を車内に放置しない）ようにするのがベスト。

## 9位 熱中症、脱水症状になった

10通

●ドライブ中に寝たので、寝かせたまま車を降りて、戻ったところ子供がぐったり。危うく熱中症に。他人事だと思っていたが、自分もするところだった。（49歳・女性）

●夏でリアウインドーからの日差しが強く、チャイルドシートに熱がこもり脱水症状を起こしかけた。（35歳・女性）

★水分補給はこまめに。夏場はサンシェードなどを活用し直射日光を避ける。また、子供を車内に置きざりにするのは厳禁。

## 10位 食べ物をのどに詰まらせた

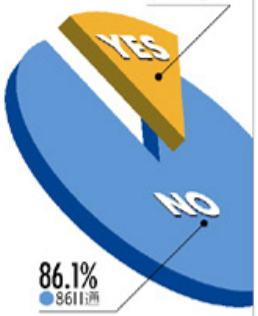
9通

●車が発進した拍子にキャンディがのどに詰まり、息ができず苦しがった。急いで病院に駆け込み、事なきを得ました。（52歳・女性）

●キャンディを口に入れたまま、上向きで眠ってしまい、のどに詰まった。（33歳・女性）

●ブレーキ時、ストローがのどに刺さり血が出た。（29歳・男性）

★アメを詰まらせた例、ストローでケガをした例が多い。できるだけ、走行中の飲食は避けて。




車内で子供がケガをしたことがありますか？
4月号読者アンケートより
10000通無作為抽出

## こんな予期せぬハプニングも！

●止めた車に子供を残してちょっと用を足している間に、子供がサイドブレーキを解除。ギアを入れずおなかったため動き出して堀に転落し、ケガをした。（53歳・男性）

●駐車場で、父と二人で荷の積い物を待っていた時。車のカギをいれながら車の中で遊んでいて、中を切り、出血した。（43歳・男性）

●後部座席の灰皿のバネに頭をはさみ、ツメをはがした。（37歳・男性）

●シートを後ろに倒した時に、よく倒れすぎて後ろの座席の頭に当たり、鼻血が出た。（46歳・女性）

●車内で子供が一人で遊んでいて、キーロック。暑い夏の夕方、JAFが到着するまで気が気じゃなかった。（33歳・女性）

●車内でジャンプ傘が開いて子供の顔に刺さった。（40歳・男性）

●子供が鼻ぶつで窓を全開にしてドライブしたら、のどがカラカラになり、夜に大泣き。声がおかしくなった。（42歳・男性）

●後部座席でシートベルトをしていない時。対向車が中央線を越えてきて衝突し、ガラスの破片で顔を20針縫う大ケガをした。（55歳・女性）



## 10か条

### 1 ドアを閉める時は「閉めるよ」と声をかける

子供に「ドアを閉めるよ。手を引っ込めてね」と声をかけ、確認する。ドアの開け閉めを子供にさせないことも大事。

### 2 時間に余裕を持って行動する

急いでいると、つい確認不足になりがち。特に乗せ降ろしの時は余裕を持って。

### 3 チャイルドシートに必ず座らせる

きちんと座らせていれば、1・2・3・4・8位の例のほとんどは防ぐことができる。

### 4 チャイルドシートがきちんと装着されているか確認する

シート自体の取り付けにぐらつきがないか、またベルトにゆるみがないかをチェック。

### 5 子供を車内に残しておかない

子供だけを車内に残すのは厳禁！　熱中症や、いたずらによるケガなどの原因に。

### 6 チャイルドロックを使う

走行中に子供がドアを開けるのを防ぐ。取扱書で位置や操作法を確認して。

### 7 パワーウインドーのロックを使う

運転席以外の窓の開け閉めをできなくする。スイッチの形状、位置は取扱書で確認を。

### 8 夏季は水分補給をこまめに

夏の長時間ドライブではこまめに水分を補給する。生後4か月以内の赤ちゃんの長時間移動はなるべく避ける。

### 9 走行中は食べ物を食べさせない

特にアメとピーナッツなどのナッツ類は気管に入りやすく危険。飲み物のストローものどに刺さる場合がある。

### 10 固い、または尖っているおもちゃを持たせない

急ブレーキ時などにぶつけてケガをする危険があるので、おもちゃは軟らかいものを選ぶ。

# ＪＡＦ セーフティ・アドバイス

― シートベルトを締めないで安全な席はない！ ―

交通事故は思わぬ時に起こるものです。また、車内において、保護者などの不注意により、大切な子どもを危険な目に遭わせてしまうことも・・・

このＤＶＤは、車内の安全性について改めて考え、啓発するための映像が収録されています。

ドライバーに対して、啓発や講習を実施する立場にある方が実践的かつ現実的に車内の安全について啓発や講習を行うための映像です。

本映像をご活用いただき、交通安全の一助となれば幸いです。

サポート・ユア・カーライフ
社団法人 日本自動車連盟

＜収録内容＞

| | | |
|---|---|---|
| 後席シートベルト非着用の危険性 | 〔啓発編　5 分 32 秒〕 | 〔講習編　9 分 32 秒〕 |
| チャイルドシート不使用の危険性 | 〔啓発編　5 分 28 秒〕 | 〔講習編 11 分 34 秒〕 |
| 車内に潜む子どもへの危険性 | 〔総合編 10 分 58 秒〕 | |

## 後席シートベルト非着用の危険性

例えば、時速 50Km で走行していた車が万が一の事故などにより衝突した場合、ほとんど瞬時に 0km になります。

しかし、その時全ての乗員には、そのまま時速 50Km で進み続けようとする力が働きます。

そのため、後席でシートベルトを着用していない人は、時速 50ｋｍで、フロントガラスや、車内の構造物に激突することになるのです。また、クルマの事故は、正面衝突だけとは限りません。

状況によっては、シートベルトをしていないと車内に激突するだけでなく、車外に放出される危険も出てきます。

さらに、同乗者に対して加害者になってしまう危険性もあります。

シートベルトをしていない後席乗員は衝突により投げ出され、前席のシートバックを押しつぶし、シートベルトをしていた前席の乗員にも大きな被害を与えてしまいます。

このように万が一の衝突の時、シートベルトをしていないと、自分だけでなく家族などの同乗者の身も守ることはできません。

瞬時に止まって見える衝突も、実は車のボディがつぶれることにより衝撃を吸収し、和らげようとしています。これもシートベルトを正しく着用することによって、初めてその効果が得られるのです。

シートベルトを正しく着用するには首にかからないように、肩ベルトは、鎖骨・胸骨・肋骨にかかるように、腰ベルトは、お腹にかからないように、骨盤の低い位置にくるようにします。また、ねじれや緩みが無いかもチェックしましょう。

それが、あなたや家族を事故の衝撃から守る最善の方法です。

後席シートベルト非着用３つの危険！！！

車内の構造物に激突

車外に放出される危険も

前席乗員へも被害を及ぼす

## チャイルドシート不使用の危険性

事故などの衝撃から乗員を守るシートベルトも大人用に設計されているため、身長が 140cm に満たない子どもはシートベルトで守ることができません。

そのため、子どもにはその体格に合ったチャイルドシートを使う必要があるのです。

「スピードを出さないから」とか「近くて慣れた道だから」といって子どもを抱っこしたまま乗車している方を見かけますが、本当に大丈夫なのでしょうか？

時速 40ｋｍでさえ、身体には体重の約 30 倍の力がかかると言われていますから、いくらお母さんがしっかりと抱っこしていたとしても、とても支えきれるものではありません。

急ブレーキの時はどうでしょう？

ＪＡＦの行ったテストでは、急ブレーキを踏むことを分かっていても、身体が不安定となり、対応できず、子どものダミーを支えることができませんでした。まして実際の場面では、いつ急ブレーキが踏まれるか分かりませんから、なおさらです。

急ブレーキの時であっても、抱っこでは子どもを支えることができないのです。

しかし、衝撃から子どもを守ってくれるチャイルドシートも正しく使用しなければ、その効果は十分に発揮されません。

まずチャイルドシートは、子どもの成長、体格に合ったものを、使いましょう。

また、取付けの際は取扱説明書を十分確認し、がたつきがないよう、シートベルトでしっかりと固定します。

子どもは、自分で事故などの危険から身を守ることはできません。それは、私たち大人の役目です。

**子どもをしっかりと抱っこしていたとしても、とても支えきれるものではありません！**

急ブレーキの時でも車内前方の構造物に強打

衝突の時には前方構造物に激突

## 車内に潜む子どもへの危険性

非常に便利な乗り物であるクルマ・・・

しかし、その快適なクルマの中にも乗員に及ぼす様々な危険が潜んでいます。

この危険から乗員を守るのは、クルマを利用する私たち一人一人の心掛けがカギとなるのです・・・

車内において、特に大人の不注意などで子どもへ及ぼす危険は、思わぬ所に潜んでいます。

ドアやパワーウインドウなどに手や足を挟んでしまう危険や、保護者がクルマの中に子供を残したまま離れ、車内の温度の上昇によって起こる熱中症等の危険です。

これは、「死」につながるかもしれない重大な危険です。

その他にも、思わぬ危険は沢山あります。

熱による爆発の危険性のあるライターや、子供のイタズラなどで危険を伴う刃物類、工具なども車内に置きっぱなしにしないようにしましょう。

また、シガーライターを子供がいたずらして火傷するケースや、暑い季節では、日光の直射を受けているシートベルトの金具やその他の金属部品による火傷も有ります。

子どもを危険な目に合わせないためには、大人達の注意力が必要です。

ＤＶＤの映像は、必要に応じて複製していただけますが、映像の再処理は禁止します。また、すべての内容について、商業目的での二次使用は禁止させていただきます。

＜ＤＶＤに関する問い合わせ先＞　社団法人 日本自動車連盟（ＪＡＦ）交通環境部 事業推進課
〒105-0012　東京都港区芝大門 1-1-30　日本自動車会館 14 階
TEL:03-3578-4915　FAX:03-3578-4916　E-mail:ksuisin@jaf.or.jp

JAF